

グローバル化の振り子の動き ——その逆転の予測

*“THE PENDULUM MOVEMENT OF GLOBALIZATION:
THE PROSPECT OF ITS REVERSAL.”*

我々はすでにグローバル化の振り子の動きの状態におかれているかもしれない。世界における公共政策の主な議題は、市場の力を頼る新自由主義から社会保護を主張する考えに転換しつつある。また、近年のグローバル化の挫折はもう一つの新しい動きを伴っている。第二次世界大戦後のウィルソン自由主義の国際秩序に対する長年の先進国の大衆の支持は、日増しに強くなっている孤立主義によって取って代わられた。いま世界に起こっている出来事を我々はどう理解し、どう解釈すべきか。これはグローバル化の逆転を意味するものなのだろうか。

本講義ではカール・ポランニー、ジョヴァンニ・アリギ、ハロルド・ジェイムズという3人の学者の理論を基礎に分析の枠組みを構築する。この3つの理論は、現在の国際政治の潮流の背後にある原動力を分析するうえで役に立つ。しかし、我々はさらにグローバル化の逆転の政治過程——グローバル化の意識形態が如何にグローバル化の危機対応に影響し、さらにこの影響が如何にして自由貿易や反移民運動の勃興を引き起こしたか——を理解するための新しい視角を必要としている。

以上の理論の枠組みに基づいて、グローバル化を次の二つの時期に分けて分析する。第一の時期は1970年～2008年の世界金融危機までの期間である。この時期の最も顕著な特徴は新自由主義の勃興であった。第二の時期は、2008年から今日までである。この時期に深く制度化された自由貿易と移民の理念はグローバル化が引き起こした各種の問題に関する先進国の対策に影響してきた。以上の諸対策は、グローバル化の中で損失した人々の不安を引き起こした。各国の政府は、グローバル化の危機に対応する旧来の思考方法が原因となり、新しい公共政策を調整して社会を守ることができなかった。この失敗は、グローバル化の逆転を引き起こしている。

【適宜通訳あり】学部生・一般の方も参加可能です。（予約不要）

日時： 2019年12月23日（月）
15時20分～17時00分

会場： 明治大学 駿河台キャンパス
グローバルフロント3階 4031教室

講師： Bai Gao

(Department of Sociology, Duke University, Professor)

【お問い合わせ先】明治大学大学院事務室
政治経済学研究科担当 ☎03-3296-4150



明治大学大学院

